

令和4年度地方創生推進交付金事業評価シート

事業名	中心拠点と公共交通ネットワークの再構築による多極ネットワーク型コンパクトシティ推進事業				
①基本事項					
事業タイプ	横展開タイプ	事業分野	まちづくり	実施期間	R2年度～R4年度
②事業概要					
鳥取駅周辺を麒麟のまち圏域の中心市のエントランスにふさわしい利便性の高い、活気、魅力のあるエリアにすることを目的とする。エリア周辺の構造的課題の把握、回遊性・滞在性の向上による魅力の創出、遊休不動産の利活用を通じてまちの魅力を高める「リノベーションによるまちづくり」の推進を行う。また、市内外からの来訪者増加に向け、持続可能で利便性の高い公共交通の再構築に向けた事業を展開する。					
③令和4年度実施事業					
事業番号	事業名	概要	主な実績	担当部（局）課等	
				実施事業を含む予算中事業名	
1	鳥取駅北口広場 プライシトエック トプ	(1)鳥取駅北口広場ライトアッププロジェクト 鳥取駅北口周辺広場のライトアップ装飾を施すことで、人々が滞在しやすい空間を整え、賑わいの創出を図る。	●通年点灯して人々が滞在しやすい空間を創出。	都市整備部 まちなか未来創造課	
				鳥取駅前周辺 にぎわい創出事業	
2	(リノ遊休不動産利活用まちづくり推進事業係)	(1)遊休不動産利活用ワークショップ開催経費、専門アドバイザー派遣事業、遊休不動産活用事業、まちなか遊休不動産ワーケーションプログラム リノベーションまちづくりに取り組む民間プレイヤーの育成を行う「遊休不動産利活用ワークショップ」の開催、当該ワークショップや遊休不動産活用に取り組む団体等に対し、その分野の専門家をアドバイザーとして派遣する「遊休不動産専門アドバイザー派遣事業」の実施、遊休不動産を活用して、まちなかの賑わいに資するイベント等を開催する団体等を助成する「遊休不動産活用事業」を実施し、民間主導の持続的なまちづくりを促進する。	●ワークショップ（空き家会議）は、3年ぶりに集客による開催を実施。空き家の実態調査報告や鳥取市の支援制度等を解説し、周知を行った。 ●まちづくり会議を開催し現状の取り組みなど情報共有を行った。（交付金外事業） ●まちなかの戸建て住宅を対象にボスティングを行い制度の周知を行った。 ●遊休不動産専門アドバイザー派遣事業の活用0件 ●遊休不動産活用事業による助成制度の活用は0件	都市整備部 まちなか未来創造課	
				遊休不動産利活用 推進事業	

事業名		中心拠点と公共交通ネットワークの再構築による多極ネットワーク型コンパクトシティ推進事業				
事業番号	事業名	概要	主な実績	担当部（局）課等		
				実施事業を含む予算中事業名		
3	システム世代の代転導公等入共に検交関通する業務	(1)自動運転等に関する次世代公共交通システムの導入検討業務 交通事業者の運転者不足が深刻化し、バス路線等の廃止や減便が続いているため、自動運転バス等のAIやIoTを活用した次世代公共交通システムの導入に向けた調査・研究等に取り組み、生活を支える持続可能な公共交通ネットワークの構築を図る。	●【交付金対象事業外】令和3年度に実施した観光地における自動運転実証実験の課題等を関係者で共有した。市街地における次世代公共交通システムの導入について検討するため、事業者と次の実証実験に向けた検討を行った。	都市整備部 交通政策課		
				未来型地域交通連携確保 事業費		
④事業費について						
総事業費			2,513,141	円		
財源内訳	地方創生推進交付金（国補助金）		1,256,570	円		
	その他の特定財源		0	円		
	一般財源		1,256,571	円		
⑤重要業績評価指標（KPI）						
指標1	指標名	中心市街地における歩行者・自転車通行量（平日・休日）（人/年度）				
	関連する事業番号	1～2	担当部（局）・課等		都市整備部 まちなか未来創造課	
		基準値 H30年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	目標値	－	14,725	14,925	15,125	
	実績値	14,525	14,398	10,120	9,065	
	達成率	97.8%	67.8%	59.9%		
指標2	指標名	遊休不動産の利活用件数（件/年度）				
	関連する事業番号	2	担当部（局）・課等		都市整備部 まちなか未来創造課	
		基準値 H27年～H30 年度（累計）	R2年度	R3年度	R4年度	
	目標値	－	2	2	2	
	実績値	8	3	0	3	
	達成率	150.0%	0.0%	150.0%		

事業名		中心拠点と公共交通ネットワークの再構築による多極ネットワーク型コンパクトシティ推進事業					
指標3	指標名	圏域の路線バス利用者数（千人/年度）					
	関連する事業番号	3		担当部（局）・課等		都市整備部 交通政策課	
		基準値 H30年度	R2年度	R3年度	R4年度		
	目標値	－	2,585	2,456	2,334		
	実績値	2,721	2,335	2,262	2,432		
	達成率		90.3%	92.1%	104.2%		
内部評価		内部評価基準 ①地方創生に非常に効果的であった 全てのKPIが目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合 ②地方創生に相当程度効果があった 一部のKPIが目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合 ③地方創生に効果があった KPIの達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組みが前進・改善したとみなせる場合 ④地方創生に対して効果がなかった KPIの実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言い難いような場合 ⑤評価対象外 事業を実施しなかった場合					
⑥今後の方針について							
事業番号1		隣接する風紋広場との一体的なデザイン・整備によるライトアップ演出が可能となり、駅前のシンボルとしての空間形成を図ることができた。引き続き市民にとっての憩いの場の創出や、イベント利用や出店など公共空間の利活用促進を図り、中心市街地への誘客へ繋げる。					
事業番号2		「鳥取市リノベーションまちづくり構想」に基づき、リノベーションまちづくり会議の開催、投融資制度の活用等による事業化の伴走支援や民間、地域によるエリアマネジメント推進に向けた取り組みを進める。また、まちなかの遊休不動産を題材に都市部のワーケーション人材と地元人材のチームを構成し、課題解決に向けた物件の活用提案を行う「まちづくりワーケーションプログラム」を実施するなど、遊休不動産所有者と民間事業者のマッチングの強化、事業化の推進を図っていく。					
事業番号3		令和3年度に策定した自動運転移動サービスロードマップに基づき、交通事業者や自動運転技術の提供企業などと協働し、自動運転バスの走行環境の調査研究や実証運行などの取組を推進していく。					

事業名		中心拠点と公共交通ネットワークの再構築による多極ネットワーク型コンパクトシティ推進事業			
⑦総合企画委員評価（外部評価）					
外部評価		外部評価基準			
①		①KPI達成に有効であった ②KPI達成に有効とは言えない			
意見等 No.	事業 番号	ご意見・ご質問等の内容	担当課回答	担当課	
1	3	路線バスの取組は今後も必要なので、利用できる範囲を検討することも視野に入れてほしい。	令和3年度に実施した観光地（鳥取砂丘）における自動運転実証実験に続き、鳥取市自動運転移動サービスロードマップに沿って市街地（鳥取駅～鳥取城跡）における自動運転実証実験の実施に向けて検討を進めています。	交通政策課	
2	1・2	鳥取駅北口と風紋広場が鳥取駅・鳥取市の象徴となるように更なる整備や明るいイメージを根本に定期的なイベントや出店など確実に続行していただきたいと思います。 遊休不動産の活用は重要課題だと思います。県・市・不動産業界との話し合い、連携で解決すべき急務だと思います。	今後、駅周辺の再整備に向けた取組を進めるとともに、賑わい創出のための様々な事業も継続してまいります。 また、本市は、鳥取県や宅建協会等が加盟している団体「空き家利活用推進協議会」に参画し、関係者と連携を図りながら遊休不動産の利活用を通じて、賑わいや魅力創出に努めているところです。	まちなか未来創造課	
3	2	空家対策に対する、アドバイザー派遣事業や助成制度の活用は充実しつつあると思われるが、個人個人の空家対策をどうしようかと頭を悩ませている人達の問題をどう解決するかも大事だと思われる。	空き家になる要因は様々であり、個別案件毎に適切な支援等を行うことが重要であると考えます。本市では、宅建協会と連携して、住まいに関する総合的な相談窓口を設置し、空き家に関する個別相談への対応等を行っているところです。今後も、よりきめ細やかに対応できるよう努めてまいります。	まちなか未来創造課	
4	2	特に事業番号2の取組（遊休不動産利活用推進事業）は工夫が必要と感じます。いずれの事業もPR不足で市民に伝わっていない。	本事業は、本市公式ウェブサイトをはじめ、まちなか情報誌「わっか」やSNS等を通じて情報発信に努めてきたところです。今後、より広く事業の周知が図れるようPR方法を工夫してまいります。	まちなか未来創造課	
5	1	中心市街地の通行量の減少はコロナによる生活習慣の変化もあり買物行動も変化しており、このままでは効果は期待できないように感じる。 ライトアップだけでは効果が局所的なので、賑わいを生むイベントなども組み合わせる人を増やす工夫が必要かと思う。	本市では、「居心地が良く歩きたくなるまちなか」を目指して、バード・ハットや風紋広場でのイベント開催、桜土手周辺のライトアップなど官民連携での取組を行っているところです。さらに本年度は、ARを活用したイベントや鳥取駅北口のケヤキ広場において賑わい創出実証事業に取り組んでおり、今後、こうした事業の検証結果を踏まえながら、より効果的な事業を検討・実施してまいります。	まちなか未来創造課	
感想等 No.	事業 番号	ご感想等の内容			担当課

事業名		中心拠点と公共交通ネットワークの再構築による多極ネットワーク型コンパクトシティ推進事業	
1	1・3	KPIの指標結果と概要がどのように連携しているのかよく分からない。どちらかといえばコロナの影響で歩行者・自転車の通行量やバスの利用者数に変動があったのではないかと思います。この評価でいいのか、また評価基準に不安が残るものになりました。	まちなか未来創造課
2	1～3	年度による振れ幅が大（指標1、3）、目標値の絶対値が小（指標2）などの理由で適切な評価が難しい。	まちなか未来創造課